

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	与格主語と「はじめて」文
Author(s)	長友, 和彦
Citation	ニダバ , 18 : 70 - 70
Issue Date	1989-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047203">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047203</a>
Right	
Relation	



## 与格主語と「はじめて」文

長 友 和 彦

本発表では、まず、「はじめてだ」を述語とする文が二項述語文であり、「NP-に（与格） NP-が（主格） はじめてだ」という格関係の語順の与格構造を持つことを明らかにした。そして、(i)いわゆるプロトタイプ論における日本語の主語の統語特性をどれだけ備えているか、(ii)述語で表されている行為や状態の帰属先・出所となっているか、(iii)「～にとって」との交替を許さないか、ということに基づいて、文頭の「NP-に」という与格名詞句の主語性を、他の与格（主語）構文及び主格（主語）構文の文頭の名詞句の主語性と比較し検討した。その結果、「はじめてだ」文の与格名詞句の主語性が最も低いことが明らかになったが、それは、「主語性」をめぐる、「格関係」・「意味関係」・「文法関係」が一般的に次のような関わりを持っているからであると考えられる。

格関係	主格（が）		与格（に）	
意味関係	動作主	経験者	経験者	対象
文法関係	高 ←←←←←←←←←← （主語性） ←←←←←←←←←← 低			

つまり、文法関係において「主語」とみなせる名詞句の主語性は、それが「主格」で「動作主」である場合が最も高い。即ち、その名詞句はプロトタイプの主語ということになる。次に、「主格」で「経験者」、その次に、「与格」で「経験者」、最後に、「与格」で「対象」という順序で主語性は連続して低くなっていく。つまり、「はじめてだ」文の文頭の名詞句の主語性が低いのは、それが「与格」で「対象」だからであると言える。